

2023

み	な	び			
み	な	で	つ	く	る
び	じ	ゅ	つ	か	ん

みなび 「やまなしをつくろう」

Reassembling

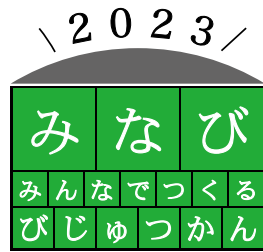


再集結!



種をまく 世界がひらく

山梨県立美術館
Yamanashi Prefectural Museum of Art



ごあいさつ

「みんなでつくる美術館(みなび)」とは、大人も子どもも、障がいのある人も、アーティストも、一般の人も、誰もが自由に参加して、楽しみながらつくり上げる展覧会です。22回目となる今年度は、展覧会前の7回のワークショップと、みなび展、みなび展会期中2回のワークショップを開催しました。

20年以上に渡る「みなび」はこれまで、さまざまなテーマのもと、時にかたちを変えながら続けられてきました。折々に「みなび」の根幹たる「みんな」とは何かを問い、確かめながら、歩んできました。ここ数年は、新型コロナウイルスの流行により人が集まることができない状況となり、オンラインなど新しい形態を模索することもありました。

今年度は、私たちが改めて日常を取り戻す日々を送る中で始まりました。そして、3カ年のテーマとして「やまなしをつくろう」という言葉を設定しました。1年目の今年度は、山梨の自然や生き物に目を向けました。改めて自分たちの住んでいる山梨という地域を見つめつつ、再び集まり、年齢や障がいの垣根なく、ともに表現活動を行ったのです。

9名のアーティストを講師に迎えたワークショップにより、「山」「葉」「土」「空」などを題材に多彩な作品が生み出されました。みなび展の会場には、参加者が制作した作品により、小さな山梨が出現しました。多くの鑑賞者が、山梨の豊かな自然を思い起こしながら、大人から子どもまで幅広い世代の参加者による力強い作品の数々を見ていただきました。本報告書は、展覧会の様子を含めた今年度の記録となります。

来年度は「やまなしをつくろう」の2年目となります。どんな題材をもとに、どんな作品が生み出され、どんな展覧会になるのか。今後の「みなび」の展開にご期待ください。

みんなでつくる美術館実行委員会
委員長 青柳 正規(山梨県立美術館 館長)



やまなしの葉

講師/柏原 恵美 氏[作家] 協力:サンテクノカレッジの学生
実施日/7月16日(日) ①午前10:00~11:30 ②午後1:30~3:00
参加者/午前19名 午後13名
ボランティア(学生含む)/午前15名 午後14名



一番思い入れのある好きな場所の地図の「道」をなぞりながら、それぞれの「やまなし」を葉っぱとして描きました。

デジタル画なので、描くときに葉脈に見立てた道を指でピンチして拡大させて詳細を描き込んだり、部分的にレイヤーを分けて色を重ねたりと、アナログにはなかなかできない描画の仕方が新鮮だったのではないかと思います。

樹の一部である「葉」に個々の想いを巡らせ、集めることによって「やまなし」が出来上がるようなものになればと思います。(柏原恵美)



ゆらゆらゆらら ゆらゆらら

講師/長谷川 創 氏[作家]

実施日/7月29日(土) ①午前10:00~11:30 ②午後1:30~3:00

参加者/62名 ボランティア/25名

別日に実施/山梨市立岩手小学校の児童16名、
甲府市立甲運小学校の児童52名



そよぐ造形をみんなでつくって、山梨をもう一度見つめてみよう。

小川のせせらぎ、草木のそよぎ、炎のゆらぎ、自然物はどれも不規則にゆれ動いています。それらに触れると、なぜかほっとします。心地良いのは为什么呢。

みんなそれぞれが思う山梨のかたち、色を使って、風でそよぐ造形物をつくりました。自分のつくった山梨が風でゆらゆらとゆれて、隣の人の山梨もゆれて、全ての山梨が呼応するようにゆらゆらとおもいおもいに動きます。そんな自由気ままにゆれ動くいくつもの山梨を眺めながら、なんか落ち着くなーという気持ちになります。なんで世の中って窮屈なんだろうとか、なんでみんな同じように過ごさなきゃいけないんだろうとか考えがおよびます。ぼんやりと、でもなんかずっと考えちゃう。そよぐ造形は、そんな風に日頃を見つめ直せる装置と言えることもできます。(長谷川 創)



つちのじかん

『空から大地が降ってくるよ (獣-蝶-鳥-山)』

講師/浅井 裕介 氏[作家]

実施日/8月9日(水) ①午前10:00~12:00 子どもの部(小学3~中学3年)
②午後 1:00~ 3:30 大人の部

参加者/午前15名 午後15名

ボランティア/12名



畑を耕すように山梨の土で子どもが絵を描き、収穫するように大人が切り取って貼り付け、作品にしました。

制作の様子がこちらから
見ることができます。
「つちのじかん」➡
YouTube yusuke asai



みんなのふじさん

講師／上條 暁隆 氏[作家]
実施日／9月3日(日) 午前10:00～12:30
場所／河口湖美術館 芝生広場
参加者／26名
ボランティア／10名



富士山の麓、河口湖畔に集まり、天候に恵まれた青空の下、手や顔、足まで全身絵の具にまみれて、みんなで絵を描いた。

文字通り、これはみんなの富士山となった。

一緒に絵を描くという行為は、1人で描く絵とまた違う魅力がある。

誰かと一緒に描くことでそれは対話になり、互いに影響を受け合って響き合い、絵がさらに展開されていく。

年齢が違って、言葉が通じなくても、一緒に絵を描くだけで、仲良しになれる気がしてしまうから不思議だ。皆さんも、誰かと一緒に絵を描きましょう。(上條暁隆)



アップサイクルアート

講師／上野 玄起 氏[作家]
実施日／10月19日(木) ①午前10:00～11:30 ②午後1:30～3:00
参加者／午前10名 午後6名
ボランティア／午前9名 午後4名



コロナ禍で身近になったアクリル板パーティション。徐々にそれは見なくなり、そのまま廃棄されてしまうなら・・・アクリル板に絵を描こう! 透明な板は向かい合って座ると相手の顔が見える。相手の顔を描いてみよう。裏も表もなくお互い描き合うと一緒に描いているようでお互い違う絵、まるでピアノの連弾のように重なりながらも自分のメロディーを奏で、素敵な作品になりました。(上野玄起)



アクリル板提供：悠山房、たんぼぼ食堂

帆布はぎれ提供：yohn

金属端材提供：株式会社藤精機



それぞれのそら

講師／齊藤 翔 氏[作家]

実施日／11月3日(金・祝)

①午前10:00～11:30 ②午後1:30～3:00

参加者／午前24名 午後33名

ボランティア／午前5名 午後6名



あたりまえに存在している「空(そら)」。ワークショップの時間だけでも空の存在を意識してほしいと思い企画した。

内容は、それぞれが思う空を自由に表現する。ただ空を表現しようと言っても、色も表現も人それぞれ。実際に外に出て観察したり、あえて見ずに表現した方もいた。まさに十人十色の「それぞれのそら」が出来上がった。

今回表現された空にいつか立ち会うかもしれない。日常のふとした瞬間にまた空を意識する時間をもってもらえたら嬉しい。(齊藤 翔)



集まれ! 山梨の生き物たち

講師／村岡 由梨 氏[作家]・村岡 由季子 氏[作家]

実施日／11月11日(土)・18日(土) 午前10:00～午後4:00

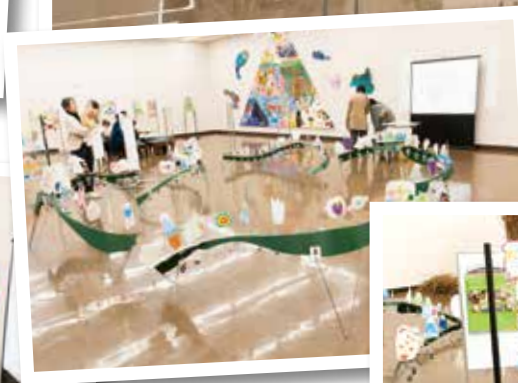
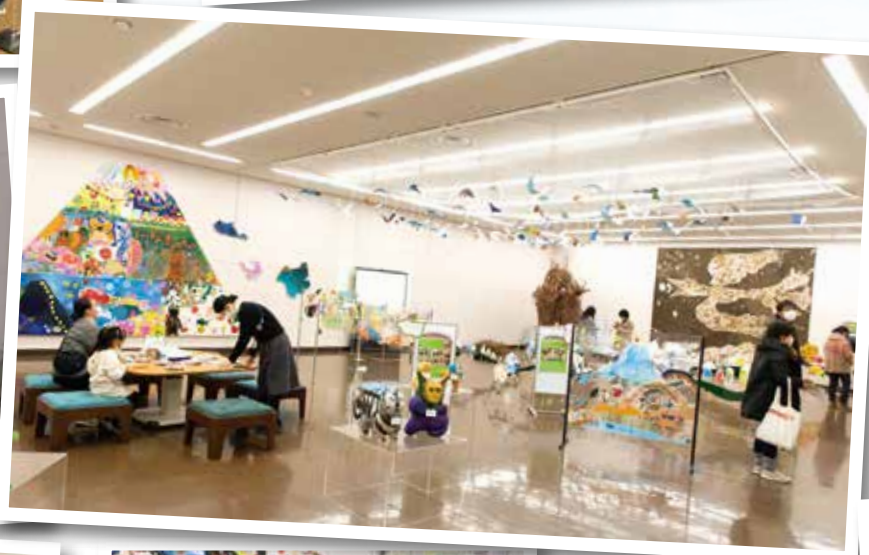
参加者／13名

ボランティア／12名



発泡スチロールと紙を使って、山梨ゆかりのある生物の立体を作ろうという企画で取り掛かりましたが、皆さんは奇想天外の動物や想像上の生き物、宇宙生物まで、様々な発想の元、楽しく嬉々として作られていました。色もカラフルで、この世に一匹しかいない素晴らしい動物たちが出来上がりました。はじめは紙に書いた二次元の動物を三次元の立体にするところで、迷いもあったようですが、無事成し遂げました。たった二日間でここまで大きな作品を完成できたことに感動です。本当にありがとうございました。(村岡由梨・村岡由季子)

みなび展会場風景



会期／2024年1月24(水)～2月4日(日)
会場／山梨県立美術館 県民ギャラリーC、他
観覧者数／2816人

みなび展

みなび展会場での

mini work shop

ジベする人

講師／古屋 崇久 氏(作家)

日時／1月27日(土)、28日(日)

午前10:00～午後3:00

参加者／約200名

展示鑑賞者が随時参加しました。



「ジベ」とは、ジベレリン処理のこと。種無しブドウを作るために、ブドウの開花時と、小さな粒になった時に、一房一房に液体の薬をつけます。

ブドウの枝提供者

中島敏夫 氏(笛吹市御坂町)…富士の夢(細い枝)

中島由美 氏(山梨市)…巨峰(太い枝)



ブドウの枝は、全て燻蒸済み

ジベとは、種無し葡萄を育てるためのジベレリン処理の通称です。県立美術館に収蔵されている《種をまく人》がミレーにとってバルビゾンの原風景的なアイコンだとしたら、低い葡萄棚で腰を振らせて一房ひと房ジベをする人こそが私にとって山梨の原風景でした。そして、どちらも「種」という共通項があります。今回、そのジベをする人を葡萄の剪定蔓で彫刻的に組み上げることをワークショップの題材としました。葡萄は、毎年冬の時期に剪定をします。一年で伸びた分の約1メートルほどの茶色い蔓は剪定後、各畑で燃やすのが通常で、風のない朝を狙って皆が燃やすので、その煙が狼煙のようにあちこちから上がり、白い煙が盆地に停滞する様は冬を代表する壮観な景色です。二日間という短いワークショップでしたが、沢山のの方々にお越しいただき、大きく壮大なジベをする人を無事完成する事が出来ました。ワークショップを終えて感じたのは、ジベという行為をはじめとする葡萄栽培の文化が峡東地域ならではの風景であり、山梨県全体での認識の一致ではなかったという点でした。その点で自らの狭い見識を恥じることが出来たことに一つの収穫がありました。今回は、図らずも峡東地域の素材を使いその原風景的なアイコンを制作することになりましたが、その土地毎の素材でアイコン的な彫刻を作る広がりを探してみたいです。今回のワークショップに携わって頂いた方々に感謝致します。(古屋崇久)

みなび展会場での

mini work shop

富士山をかこう！

みなび展会期中(2024年1月24日～2月4日)

会場内で随時制作可能とし、

完成した絵は参加者が自分で展示場所に貼りつけました。

参加者／812名



おみくじ

今回は特製「おみくじ」もお客様に楽しんでいただきました。当館所蔵のミレーやバルビゾン派の作品にちなんだ内容で、みなび展と一緒に常設展にも足を運んでいただきたい!との思いから作成したものです。「超大吉」「ほんのり大吉」などの幸運を引き当てる方が続出し、笑顔があふれました。



アンケートから

ワークショップ参加者とみなび展をご覧いただいた皆さまからたくさんの言葉をいただきました。その中からごく一部をご紹介します(原文のまま)。



やまなしの葉

- 最初は少し変わっているテーマだなと思っていましたが、かいていけるうちに楽しくなってきた、良い作品を仕上げることができました。(10代)
- 葉脈と地図を合わせる発想がとても面白く感じた。実際に、レイヤー分けをして、自分オリジナルの作品を制作できたことに、とても達成感を得た。皆で一つの物事に取り組むことの楽しさを肌で感じる事ができた。また行ってみたいです。(20代)

ゆらゆらゆらゆらゆら

- 自分でデザインして自由にできてたのしかったです。(10代未満)
- モバイルなどつるして飾るものを作るのかと思っていたら、全く違う内容で楽しかったです。200こゆらゆらしているところを見るのも楽しみです。(50代)

みんなのふじさん

- さいしょはひとり1まいかな? と思ったんですけど、みんなでかいたほうがたのしかったです。(10代)
- 大きなキャンパスで、体全体を使って、絵を描けることがとても楽しかったです。計画的な事をせずに、まずは思うままに描く大きな動きが、絵にもだせたと思います。子どもの気もちがダイレクトに絵にでていたと思います。(30代)

それぞれのそら

- じぶんの思いどおりのそらがかけてたのしかったです。(10代未満)
- 家族でアート制作ができて楽しかったです。家族だけど、それぞれ思う空、見てる空が違っておもしろかったです。ありがとうございました。(30代)

ミニワークショップ・ジベする人

- ジベする人に子供がはまって枝をさし続けています。(大人)
- 楽しい作品ばかりでした。種を失くす人(ジベ)のオブジェ製作はとても良かったです。(大人)

集まれ!山梨の生き物たち

- さいしょは、むずかしいと思ったのですが、さいごには、とてもたのしくおわることができた。一番楽しかったのは、こま(ねこ)に、しろい紙をはったのが良かった。(10代)
- 講師の説明が解り易く、楽しく、作業ができました。Butスタイルフォームで形をつくるのに力と技術が必要で、家に帰り、肩コリがこたえました。(年齢のせい!!)(70代)

ミニワークショップ・富士山をかこう

- おもしろかったです。ふじさんをかくのが。(小学2年生)
- 富士山がみんなきれいにかけていました。(小学3年生)

アップサイクルアート

- アクリル板に絵をかいたりしてとてもたのしかったです。とくにとうめいだからべつの見かたができるのがよかったです。(10代)
- アクリルボードに描くという貴重な体験をさせてもらい、子どもたちも大満足でした。はじめての場所が苦手な子も、ゆっくりと周りを観察しながら入室することができました。表情豊かに取り組んでいる姿をみてうれしくなりました。描く、ぬる、ホイップねん土を全身をつかい出すetc... 全力でした!ありがとうございました。(30代)

みなび展

- 山梨県民や他の都道府県から来た方々とふれ合い、作品をつくることの楽しさを分かち合えた。自分たちが作った作品がこうしてイベントを通じて展示されると達成感が生まれる。老若男女、いろんな方がおり、アートの魅力を再認識させられた。芸術は人と人とを繋ぐ。(大人)
- 自分の作品があったのでうれしかったです。それとほかの人たちは、こういうかんじでつくったんだ!! ととてもさんこうになりました。(小学5年生)
- 山梨を一人ひとりが楽しみながら生き生きと捉え、表現する様子が伝わってきて、たくさんの元氣とエネルギーをいただくことができました。(大人)

あとがき

改めて見直したやまなしと自分

「みんなでつくる美術館」が20年以上続いているということに驚きを感じています。時代に合わせ、形や方式をかえ、常に表現を通して「人をつなぐ」ということを考えてきたからこそ、多くの人に喜びと共感を持っていただけているのではないのでしょうか。

今年度、作家さん方を通して、呼吸のように「やまなし」を吸い込み、自分を放出する営みを活動してきました。さらに「みなび展」では多くの作品にふれ、改めて山梨の風土が自分の一部と感じています。来年からの展開にもわくわくしています。

みんなでつくる美術館実行委員会 副委員長 市川 知都理(南アルプス市立美術館)

2023年 みなび実行委員/後援/協力

実行委員長	青柳 正規	(山梨県立美術館館長)
副実行委員長	市川 知都理	(南アルプス市立美術館職員)
実行委員	柏原 恵美	(作家・専門学校教諭)
実行委員	木村 理香	(山梨県立美術館協力員)
実行委員	齊藤 翔	(作家)
実行委員	村岡 由季子	(作家)
実行委員	長谷川 創	(作家)
監事	島津 久美子	(山梨県立美術館協力員)
監事	山口 博	(SPSやまなし支配人)
事務局長	井澤 英理子	(山梨県立美術館学芸幹)
事務局	太田 智子	(山梨県立美術館普及リーダー)
事務局	田所 良通	(山梨県立美術館普及担当)
事務局	加藤 祥子	(山梨県立美術館普及担当)
事務局	雨宮 千鶴	(山梨県立美術館普及担当)

主催: みんなでつくる美術館実行委員会・山梨県立美術館

後援: 山梨県造形教育連合 山梨県社会福祉協議会 NHK甲府放送局 山梨日日新聞社・山梨放送 テレビ山梨 朝日新聞甲府総局 テレビ朝日甲府支局 産経新聞甲府支局 毎日新聞甲府支局 読売新聞甲府支局 山梨新報社 日本ネットワークサービス エフエム富士 エフエム甲府 エフエムハケ岳

協力: 山梨県立美術館ワークショップ協力員 山梨県立美術館実技協力員 河口湖美術館 南アルプス市立美術館 ディスプレイ遠藤 島田プロセス 日本通運株式会社山梨支店 みくに画材店 べぎん堂 SPSやまなし

みんなでつくる美術館 実行委員会

400-0065 甲府市貢川1-4-27 山梨県立美術館学芸課内
TEL:055-228-3258 FAX:055-228-3418

みんなでつくる美術館2023年度記録集

編集: みんなでつくる美術館 事務局
発行: みんなでつくる美術館実行委員会 ©2023
印刷: (株)島田プロセス



みなび
Instagram



みなび
WEB サイト



種をまく 世界がひらく

山梨県立美術館

Yamanashi Prefectural Museum of Art